

23															
施策名	デジタル化を戦略的に推進するための体制整備														
担当課	政策課 ※1														
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ ・ A I ・ 5 G 等を活用した地域課題の解決														
現状と課題	<p>・ 県では、現在も生活、産業、行政の各分野でデジタル化の取組を実施しているが、今後、デジタル化を戦略的に進めていくためには、各分野の取組方針や方向性などを示した体系的な戦略を策定して枠組みを構築するとともに、その検討・推進に当たっては、部局横断的に企画・立案、総合調整、進行管理を行う体制を整備することが必要である。</p>														
取組の方向性	<p>・ 生活、産業、行政のあらゆる分野におけるデジタル化を総合的かつ戦略的に推進するため、「かがわデジタル化推進戦略（仮称）」を策定するとともに、5 G、自動運転等の先端技術の利活用による地域課題の解決に向けた検討を行う。</p> <p>・ 庁内に「デジタル化推進戦略本部（仮称）」を設置し、戦略の取りまとめやデジタル化推進の進捗管理を行う。</p>														
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H30 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かがわデジタル化推進戦略（仮称）</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">策定</td> </tr> <tr> <td>香川県デジタル化推進戦略本部（仮称）</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">設置</td> </tr> </tbody> </table>			指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	かがわデジタル化推進戦略（仮称）	—	—	策定	香川県デジタル化推進戦略本部（仮称）	—	—	設置
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)												
かがわデジタル化推進戦略（仮称）	—	—	策定												
香川県デジタル化推進戦略本部（仮称）	—	—	設置												
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td style="height: 100px;"></td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「かがわデジタル化推進戦略（仮称）」の策定 「香川県デジタル化推進戦略本部（仮称）」の設置 等 </div> </td> </tr> </tbody> </table>			R1 年度	R2 年度	R3 年度			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「かがわデジタル化推進戦略（仮称）」の策定 「香川県デジタル化推進戦略本部（仮称）」の設置 等 </div>						
R1 年度	R2 年度	R3 年度													
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「かがわデジタル化推進戦略（仮称）」の策定 「香川県デジタル化推進戦略本部（仮称）」の設置 等 </div>													

24												
施策名	A I 利活用の推進											
担当課	政策課 ※1											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ ・ A I ・ 5 G 等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ A I は、私たちの生活や働き方を劇的に変え、また、地域が抱える人口減少、地域活力の低下などの様々な課題の解決に寄与することが期待されることから、政策課題や業務遂行課題への A I の活用の可能性について検討を行う必要がある。 ・ 平成 29 年度から、我が国の A I 研究の第一人者で、本県出身の東京大学大学院の松尾豊教授を招き、A I 技術の活用の可能性についての講演会を開催するとともに、A I の効果的かつ効率的な利活用策について関係者と協議を行うなど、具体的な取組に向けた検討を行った。 											
取組の方向性	・ 引き続き、A I 技術を活用した社会的課題の解決等に向けた検討を行う。											
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">指標</th> <th style="width: 12.5%;">当初 (H30 年度)</th> <th style="width: 12.5%;">現状 (R2 年度)</th> <th style="width: 12.5%;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A I 利活用による社会的課題の解決</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	A I 利活用による社会的課題の解決	推進	推進	推進
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)									
A I 利活用による社会的課題の解決	推進	推進	推進									
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">R1 年度</th> <th style="width: 33%;">R2 年度</th> <th style="width: 33%;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block; margin: 0 auto; width: 80%;"> A I 利活用についての検討 ・ 情報収集、県内での利活用の促進 </div> </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block; margin: 0 auto; width: 80%;"> A I 利活用についての検討 ・ 情報収集、県内での利活用の促進 </div>				
R1 年度	R2 年度	R3 年度										
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block; margin: 0 auto; width: 80%;"> A I 利活用についての検討 ・ 情報収集、県内での利活用の促進 </div>												

25												
施策名	ドローン利活用の推進											
担当課	政策課											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ ・ A I ・ 5 G 等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小型無人機ドローンについては、全国的に官民間問わず積極的な活用が進められていることから、本県においてもより一層の利活用を検討する必要がある。 ・ これまで、県においてドローンを利用できる分野の検討や、情報収集を進めてきたところであり、平成 29 年度には、ドローンを活用した藻場の調査や道路法面の点検などの実証試験を行うとともに、県立高校において、ドローンを一つの題材としたプログラミング教育を行うなど、ドローンを試行的に使用して、その効果等の検証を進めてきた。 ・ 平成 30 年度から、庁内にドローンを導入し、ドローンの操縦等に係る技能講習の受講などにより、職員自らがドローンを操縦して、様々な県施策に利活用できる体制を整備し、運用を行っている。 											
取組の方向性	・ 引き続き、県庁内に導入したドローンの様々な県施策への利活用を図る。											
K P I	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th>指標</th> <th>当初 (H30 年度)</th> <th>現状 (R2 年度)</th> <th>目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>庁内のドローン利活用</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	庁内のドローン利活用	推進	推進	推進
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)									
庁内のドローン利活用	推進	推進	推進									
工程表	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th>R1 年度</th> <th>R2 年度</th> <th>R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="height: 100px; vertical-align: middle;"> <div style="border: 2px solid black; width: 80%; margin: auto; padding: 10px;"> ドローンの県施策への活用 </div> </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 2px solid black; width: 80%; margin: auto; padding: 10px;"> ドローンの県施策への活用 </div>				
R1 年度	R2 年度	R3 年度										
<div style="border: 2px solid black; width: 80%; margin: auto; padding: 10px;"> ドローンの県施策への活用 </div>												

26												
施策名	自動運転の実用化を見据えた検討											
担当課	政策課 ※1											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ ・ A I ・ 5 G 等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨今、自動運転を実用化し普及拡大していくことにより、交通事故の低減、交通渋滞の削減、交通制約者のモビリティの確保、物流・移動サービスのドライバー不足の改善・コスト低減等の社会的課題の解決に貢献し、すべての人が質の高い生活を送ることができる社会の実現を目指して、産学官が連携した自動運転の実証実験が全国各地において行われている。 ・ 自動運転が実用化されれば、本県においても、依然としてワースト上位にある交通死亡事故の抑制、地域の交通手段の確保などの課題の解決につながることを期待されている。また、自動運転を実現させるための新しい技術が生まれており、県内企業の中に、そうした新しい技術に関わる企業が出てくれば、県内産業の発展につながる可能性がある。 ・ このような状況を踏まえ、平成 30 年 10 月に県内市町や交通事業者などと「自動運転に関するワーキンググループ」を設置し、意見交換を行っている。 											
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国や他自治体等の取組、開発状況などの情報収集に加え、県内での実証実験の可能性なども探り、将来の実用化を見据えた検討、準備を行う。 											
K P I	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">指標</th> <th style="background-color: #d9ead3;">当初 (H30 年度)</th> <th style="background-color: #d9ead3;">現状 (R2 年度)</th> <th style="background-color: #d9ead3;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自動運転についての検討、情報収集</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	自動運転についての検討、情報収集	推進	推進	推進
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)									
自動運転についての検討、情報収集	推進	推進	推進									
工程表	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">R1 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R2 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 5px;"> 自動運転についての検討、情報収集 </div> </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 5px;"> 自動運転についての検討、情報収集 </div>				
R1 年度	R2 年度	R3 年度										
<div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 5px;"> 自動運転についての検討、情報収集 </div>												

27												
施策名	5 G 利活用の推進											
担当課	政策課 ※1、情報政策課 ※1											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ ・ A I ・ 5 G 等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 5 世代移動通信システム (5 G) は、現在の 100 倍の通信速度となり移動通信トラヒックの増加に対応できるほか、「多数接続」や「超低遅延」といった新たな特徴を持つことで、多数の I o T デバイスを接続でき、遠隔地のロボット等をリアルタイムで制御できるなど、あらゆるモノ ・ 人などが繋がる I o T 時代の新たなコミュニケーションツールとしての役割を果たすとともに、社会的課題の解決や地方創生への活用が期待されている。 ・ 令和 2 年 11 月に整備した Setouchi-i-Base において、5 G 通信環境を整備し、次世代通信技術を活用した試作品づくりなどが行える環境を構築している。 ・ その他の施策においても、5 G の積極的な活用を図り、本県における社会的課題解決に取り組む必要がある。 											
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 2 年から本格運用が始まった 5 G について、調査や普及啓発を図るなど、社会的課題解決等に資する 5 G 利活用の推進に向けた取組を行う。 											
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H30 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">5 G 利活用についての検討、情報収集</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	5 G 利活用についての検討、情報収集	—	推進	推進
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)									
5 G 利活用についての検討、情報収集	—	推進	推進									
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block; margin: 0 auto;"> 5 G 利活用についての検討 ・ 情報収集、県内での利活用の促進 </div> </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block; margin: 0 auto;"> 5 G 利活用についての検討 ・ 情報収集、県内での利活用の促進 </div>				
R1 年度	R2 年度	R3 年度										
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block; margin: 0 auto;"> 5 G 利活用についての検討 ・ 情報収集、県内での利活用の促進 </div>												

28													
施策名	情報通信関連産業の育成・誘致												
担当課	政策課 ※1、情報政策課 ※1、産業政策課、企業立地推進課、労働政策課												
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した地域課題の解決												
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本県では人口の社会減が続いており、特に転出超過が拡大している若者の大都市圏への流出に歯止めをかけ、県内定着を図るには、若者が魅力を感じる働く場の確保が必要である。 ・若者にとって魅力的で、将来の成長が見込まれる情報通信関連産業の育成・誘致に取り組み、I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した新産業、新サービスの創出や生産性向上による産業競争力の強化を促進し、若者の働く場の創出により県内定着を促進するとともに、本県経済の活性化を図る必要がある。 ・そのため、令和2年11月に Setouchi-i-Base を整備し、多様な人材が集い、ソフトウェア等の開発や情報通信関連技術の新たな活用策が誘発されるよう、活動・交流の場を提供している。 												
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリ開発やA I ・I o Tの導入などに関する実践的な講座やセミナーを実施することにより、情報通信関連分野の人材育成を推進する。 ・拠点において生み出されたアイデアを起業、第二創業、既存企業の競争力強化につなげていくため、県内外の有識者等によるアドバイザーチームやコーディネーターにより、拠点に集う人材の起業相談やビジネスマッチング支援を行う。 ・県内企業と拠点に集う人材等との出会いの機会を創設し、県内企業の人材確保を図る。 ・情報通信関連産業に対する企業誘致助成制度を活用し、情報通信関連産業の本県への企業立地を促進する。 												
K P I	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">指標</th> <th style="background-color: #d9ead3;">当初 (H30 年度)</th> <th style="background-color: #d9ead3;">現状 (R2 年度)</th> <th style="background-color: #d9ead3;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報通信関連産業の育成・誘致</td> <td>—</td> <td>推進</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	情報通信関連産業の育成・誘致	—	推進	推進	
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)										
情報通信関連産業の育成・誘致	—	推進	推進										
工程表	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">R1 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R2 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td style="text-align: left;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 拠点整備 </div> </td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2" style="text-align: left;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 人材育成 ビジネスマッチング </div> </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 拠点整備 </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 人材育成 ビジネスマッチング </div>	
R1 年度	R2 年度	R3 年度											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 拠点整備 </div>												
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 人材育成 ビジネスマッチング </div>												

29											
施策名	テレワーク拡大による移住・県内転入の促進										
担当課	地域活力推進課、企業立地推進課、労働政策課										
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した地域課題の解決										
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本県では社会減の傾向が継続しており、特に若者の大都市圏への流出に歯止めがかかっていない状況である。 ・一方、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、大都市への過度の集中のリスクが改めて認識される中、場所にとらわれないテレワークの活用や地方移住への関心が高まっている。 ・このような関心の高まりを契機に、本県への移住や関係人口の創出に繋がるサテライトオフィス等の設置を促進していく必要がある。 										
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークによる移住を促進するため、市町や事業者等によるサテライトオフィス等の開設を支援するとともに、企業への情報発信を実施する。 ・テレワークに取り組む県外企業をターゲットとしたサテライトオフィスの拠点整備を行う事業者に対し、整備等に要する経費を支援する。 ・新しい働き方を推進するとともに、地方への関心の高まりを踏まえ、県内への新規立地や移住等を促すため、県内にサテライトオフィスの開設を行う県外の事業者に対して助成を行う。 										
K P I	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">指標</th> <th>当初 (H30 年度)</th> <th>現状 (R1 年度)</th> <th>目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>移住者数</td> <td>—</td> <td>1,970 人</td> <td>2,060 人</td> </tr> </tbody> </table>			指標	当初 (H30 年度)	現状 (R1 年度)	目標 (R3 年度)	移住者数	—	1,970 人	2,060 人
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R1 年度)	目標 (R3 年度)								
移住者数	—	1,970 人	2,060 人								
工程表	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">R1 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R2 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td style="height: 100px;"></td> <td style="height: 100px; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> サテライトオフィス 等 拠点整備支援 </div> </td> </tr> </tbody> </table>			R1 年度	R2 年度	R3 年度			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> サテライトオフィス 等 拠点整備支援 </div>		
R1 年度	R2 年度	R3 年度									
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> サテライトオフィス 等 拠点整備支援 </div>									

30													
施策名	防災情報システムの更新等による情報通信体制の充実強化等												
担当課	危機管理課												
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した地域課題の解決												
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度から運用を開始した現在の防災情報システムは、令和 2 年 3 月末に運用期限を迎える。 ・災害時等における情報収集・伝達体制を充実強化するため、令和 2 年 4 月 1 日から運用する新しい防災情報システムを構築する必要がある。 ・現在、防災情報システムを中心として、かがわ防災 W e b ポータル（かがわ防災 G I S）、防災情報メール（登録制）など多様な伝達手段により防災情報を提供しているが、県民が防災情報によりアクセスしやすい環境を整備することが求められている。 ・また、災害時における罹災証明書発行等の被災者向け事務処理を迅速かつ円滑に行うことが求められている。 												
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の利便性向上のために、かがわ防災 W e b ポータルの見やすさ向上を図るとともに、「マルチデバイス対応」「多言語対応」を行う。 ・県民がより手軽に防災情報を入手できるよう、「防災情報通知」「避難先検索」「家族等の居場所確認」等の機能を備えたスマートフォン用アプリケーションを導入し、防災情報の提供強化を図る。 ・市町が行う罹災証明書発行の事務処理が迅速に行えるよう、被害認定調査票の一括出力機能や、調査後の調査票データの自動取込機能等を取り入れた「被災者支援システム」を導入する。 ・防災アプリ「香川県防災ナビ」を広く県民に利用されるよう広報等を行うとともに、活用事例集の作成を通じ、より実践的な活用を促す。 												
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H30 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新システムの利活用</td> <td style="text-align: center;">構築中</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> <tr> <td>防災アプリの利活用</td> <td style="text-align: center;">未導入</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </tbody> </table>	指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	新システムの利活用	構築中	推進	推進	防災アプリの利活用	未導入	推進	推進
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)										
新システムの利活用	構築中	推進	推進										
防災アプリの利活用	未導入	推進	推進										
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="width: 33%;">R1 年度</th> <th style="width: 33%;">R2 年度</th> <th style="width: 33%;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;">新システムの構築</div> </td> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 90%; margin: 0 auto;">新システムの運用</div> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;">防災アプリの構築</div> </td> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 90%; margin: 0 auto;">防災アプリの運用</div> </td> </tr> </tbody> </table>	R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;">新システムの構築</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 90%; margin: 0 auto;">新システムの運用</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;">防災アプリの構築</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 90%; margin: 0 auto;">防災アプリの運用</div>				
R1 年度	R2 年度	R3 年度											
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;">新システムの構築</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 90%; margin: 0 auto;">新システムの運用</div>												
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;">防災アプリの構築</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 90%; margin: 0 auto;">防災アプリの運用</div>												

31												
施策名	I o T を活用した交通事故抑止対策の推進											
担当課	くらし安全安心課											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G 等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年の県内の交通事故は、事故件数、負傷者数とも前年から減少したものの、死者数は前年を12人上回る59人となった。また、人口10万人当たりの死者数は全国ワースト1位で、死者数の削減が課題となっている。 ・交通事故の抑止を図るため、A I を活用した交通事故分析やI o T を活用した県民参加・実践型の交通安全運動を実施した。 											
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・A I による交通事故危険度予測マップで公表している危険個所について、損害保険会社と連携し、損害保険会社が自動車保険の契約者に提供している通信型ドライブレコーダーを通じて、運転しているドライバーに危険個所をリアルタイムで通知し、注意喚起を行う。 											
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H30 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">交通事故死者数</td> <td style="text-align: center;">44 人 (H30 年)</td> <td style="text-align: center;">59 人 (R2 年)</td> <td style="text-align: center;">45 人 (R3 年)</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	交通事故死者数	44 人 (H30 年)	59 人 (R2 年)	45 人 (R3 年)
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)									
交通事故死者数	44 人 (H30 年)	59 人 (R2 年)	45 人 (R3 年)									
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> A I を活用した交通事故分析 (H30) の結果を踏まえた広報啓発 </div> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> I o T デバイスを活用した県民参加・実践型の交通安全運動の推進 </div> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> I o T デバイスを活用した安全運転支援 </div> </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> A I を活用した交通事故分析 (H30) の結果を踏まえた広報啓発 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> I o T デバイスを活用した県民参加・実践型の交通安全運動の推進 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> I o T デバイスを活用した安全運転支援 </div>		
R1 年度	R2 年度	R3 年度										
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> A I を活用した交通事故分析 (H30) の結果を踏まえた広報啓発 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> I o T デバイスを活用した県民参加・実践型の交通安全運動の推進 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> I o T デバイスを活用した安全運転支援 </div>										

32															
施策名	イノシシ被害未然防止緊急対策事業における I C T 捕獲システムを導入した捕獲の実施														
担当課	みどり保全課														
該当する基本方針	(5) I o T、ビッグデータ、A I 等を活用した地域課題の解決														
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 狩猟免許所持者 2,067 人のうち、60 歳以上が 64%（70 歳以上 34%）を占めており、高齢化が進む一方、狩猟免許新規取得者に占める 40 歳代以下の割合が年々増加し、平成 28 年度以降は 5 割を超える状況にあり、若い世代に狩猟への関心が高まっているものの、実際に狩猟を行っている者は 1,300 名余りで、60 歳以上が 7 割以上を占める。 ・ 若者や現役の世代は、仕事を持っているため、毎日のわなの見回りや迅速なイノシシの殺処分が負担であることなどから、狩猟を敬遠している状況にあると考えられる。 														
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県では、若者や現役の世代の狩猟に対する意欲を喚起・支援することで、今後の捕獲の担い手の確保や捕獲されたイノシシによる事故防止を図るため、新たなイノシシの捕獲手法として「長距離無線式捕獲パトロールシステム（ほかパト）」を活用した捕獲を実施する。 ・ 具体的には、わなに仕掛けた子機が設置された多数のわなの作動状況が無線機とモバイル通信を介して瞬時に狩猟者の携帯端末に通知され、捕獲の状況が速やかに狩猟者に伝わることにより、イノシシの殺処分などに迅速かつ安全に対応ができることとなることから、若者や現役世代が捕獲活動を始めやすくなり、市街地周辺での捕獲の強化につながる。 														
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">指標</th> <th>当初 (H30 年度)</th> <th>現状 (R2 年度)</th> <th>目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イノシシ被害未然防止緊急対策事業における捕獲頭数</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">8 頭</td> <td style="text-align: center;">12 頭</td> </tr> <tr> <td>60 歳未満における狩猟者登録率</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">26%</td> <td style="text-align: center;">30%</td> </tr> </tbody> </table>			指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	イノシシ被害未然防止緊急対策事業における捕獲頭数	—	8 頭	12 頭	60 歳未満における狩猟者登録率	—	26%	30%
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)												
イノシシ被害未然防止緊急対策事業における捕獲頭数	—	8 頭	12 頭												
60 歳未満における狩猟者登録率	—	26%	30%												
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">R1 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R2 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td style="height: 100px;"></td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 捕獲システムの運用 </div> </td> </tr> </tbody> </table>			R1 年度	R2 年度	R3 年度			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 捕獲システムの運用 </div>						
R1 年度	R2 年度	R3 年度													
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 捕獲システムの運用 </div>													

33													
施策名	かがわ健康ポイント事業「マイチャレかがわ！」の推進												
担当課	健康福祉総務課												
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した地域課題の解決												
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年「県民健康・栄養調査」では、前回（平成 23 年）と比べて、「若い世代の朝食欠食率」「女性の 1 日の歩数」「男性の肥満」などが悪化している。これまでの健康づくりの取組が県民一人ひとりに十分に浸透していない面もあり、特に、無関心層への働きかけが不可欠な状況である。 平成 24 年度以降、小児の血液検査等に取り組んでいるが、平成 29 年度小児生活習慣病予防健診においても、血液検査の結果や生活習慣には課題があり、家族ぐるみの取組が、より一層必要な状況である。 												
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりに関するインセンティブ策を設け、官民協働の県民運動を展開することにより、県民一人ひとりの健康づくり意識の醸成と主体的な健康行動の定着を図る。 小学生以上の県民各自が、日々の運動や食事などの目標を設定し、達成できた場合や、健康診断の受診、ボランティアなどの社会参加を行った場合に健康ポイントを付与し、一定の健康ポイント数を達成した人が「マイチャレカード」を受け取り、これを提示するとサービス協力店で特典を受けられ、さらに、賞品抽選に参加できるシステムを見直し、改修・運用する。サービス協力店の拡大に努め、広報活動や賞品の提供などの協力を要請する。 												
K P I	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">指標</th> <th style="width: 12.5%;">当初 (H30 年度)</th> <th style="width: 12.5%;">現状 (R2 年度)</th> <th style="width: 12.5%;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かがわ健康ポイント事業の普及</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>	指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	かがわ健康ポイント事業の普及	推進	推進	推進				
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)										
かがわ健康ポイント事業の普及	推進	推進	推進										
工程表	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">R1 年度</th> <th style="width: 33%;">R2 年度</th> <th style="width: 33%;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: right; padding-right: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;"> 制度の見直し及び運用体制の整備（スマホアプリの機能追加など） </div> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: right; padding-right: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;"> インセンティブの仕組みの整備（サービス協力店の拡大など） </div> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: right; padding-right: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;"> 市町等保険者との協働実施 </div> </td> </tr> </tbody> </table>	R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;"> 制度の見直し及び運用体制の整備（スマホアプリの機能追加など） </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;"> インセンティブの仕組みの整備（サービス協力店の拡大など） </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;"> 市町等保険者との協働実施 </div>		
R1 年度	R2 年度	R3 年度											
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;"> 制度の見直し及び運用体制の整備（スマホアプリの機能追加など） </div>													
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;"> インセンティブの仕組みの整備（サービス協力店の拡大など） </div>													
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;"> 市町等保険者との協働実施 </div>													

34												
施策名	介護ロボット等の導入促進											
担当課	長寿社会対策課											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<p>・介護職員の働く上での悩みとして、身体的な負担が大きいことが挙げられている。こうした課題を解消する方策のひとつとして、新たな技術を活用した介護ロボット等を導入し、介護従事者の身体的負担の軽減や業務の効率化を図る取組が必要である。</p>											
取組の方向性	<p>・介護従事者の身体的負担の軽減や業務の効率化など、介護従事者が継続して就労するための環境改善策として、介護ロボットやI C Tを導入する取組を支援する。</p>											
K P I	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th>指標</th> <th>当初 (H30 年度)</th> <th>現状 (R1 年度)</th> <th>目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護ロボット等の導入支援</td> <td>推進</td> <td>35 事業所 55 台</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H30 年度)	現状 (R1 年度)	目標 (R3 年度)	介護ロボット等の導入支援	推進	35 事業所 55 台	推進
	指標	当初 (H30 年度)	現状 (R1 年度)	目標 (R3 年度)								
介護ロボット等の導入支援	推進	35 事業所 55 台	推進									
工程表	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th>R1 年度</th> <th>R2 年度</th> <th>R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="height: 100px; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: auto; padding: 5px; text-align: center;"> 介護ロボット等の導入支援 </div> </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: auto; padding: 5px; text-align: center;"> 介護ロボット等の導入支援 </div>				
R1 年度	R2 年度	R3 年度										
<div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: auto; padding: 5px; text-align: center;"> 介護ロボット等の導入支援 </div>												

35									
施策名	在宅医療・介護における多職種連携システムの導入促進								
担当課	長寿社会対策課								
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した地域課題の解決								
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護認定者数や医療の受療率が増加しており、今後、ますます医療と介護のニーズを併せ持つ高齢者の増加が見込まれている。 ・在宅医療・介護の連携に当たっては、医療・介護従事者の多職種間での連携をいかに進めていくかが課題である。 ・一部の医療機関において I C Tシステムの活用状況調査を行い、その結果を踏まえ、医師会、専門職団体の会長・理事を含めた委員による検討会において、I C Tシステムの有用性及び広域での情報提供・情報共有のあり方を検証・検討するとともに、その結果を令和元年度に取りまとめた。 								
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・取りまとめ結果を踏まえ、市町における多職種連携システムの導入促進を図る。 								
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H30 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">多職種連携システムの導入促進</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">導入促進</td> <td style="text-align: center;">導入促進</td> </tr> </tbody> </table>	指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	多職種連携システムの導入促進	—	導入促進	導入促進
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)						
多職種連携システムの導入促進	—	導入促進	導入促進						
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 多職種連携システムの導入検討 </div> </td> <td colspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 多職種連携システムの導入促進 </div> </td> </tr> </tbody> </table>	R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 多職種連携システムの導入検討 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 多職種連携システムの導入促進 </div>			
R1 年度	R2 年度	R3 年度							
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 多職種連携システムの導入検討 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 多職種連携システムの導入促進 </div>								

36												
施策名	障害福祉分野の I C T ・ロボット等導入促進											
担当課	障害福祉課											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<p>・障害福祉分野の従業者の働く上での悩みとして、身体的な負担が大きいことが挙げられている。こうした課題を解消する方策のひとつとして、新たな技術を活用したロボット等を導入し、障害福祉分野の従業者の身体的負担の軽減を図ることが必要である。また、I C T 機器を導入し、業務の効率化及び感染症拡大防止の取組を促進することが必要である。</p>											
取組の方向性	<p>・障害福祉分野の従業者の身体的負担の軽減や業務の効率化及び感染症拡大防止の取組を促進し、働きやすい職場環境の整備や安全・安心な障害福祉サービスの提供等を推進するため、I C T ・ロボット等を導入する取組を支援する。</p>											
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H30 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">障害福祉分野の I C T ・ロボット等導入支援</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	障害福祉分野の I C T ・ロボット等導入支援	—	推進	推進
	指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)								
障害福祉分野の I C T ・ロボット等導入支援	—	推進	推進									
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; padding: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 5px; text-align: center;"> 障害福祉分野の I C T ・ロボット等導入支援 </div> </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 5px; text-align: center;"> 障害福祉分野の I C T ・ロボット等導入支援 </div>				
R1 年度	R2 年度	R3 年度										
<div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 5px; text-align: center;"> 障害福祉分野の I C T ・ロボット等導入支援 </div>												

37												
施策名	K-MIX Rの利活用推進											
担当課	医務国保課											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ ・ A I ・ 5 G等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本県では平成 15 年から医療情報ネットワーク「かがわ遠隔医療ネットワーク（K-MIX）」が運用されており、県内だけでなく他県の医療機関も参加している。 ・ 平成 25 年度には、K-MIXの参加医療機関が中核病院の電子カルテや画像情報等の診療情報を活用できるよう、県内の中核病院の電子カルテ情報を共有するネットワークを構築し、K-MIXと連携させて「かがわ医療情報ネットワーク（K-MIX+）」として運用してきた。 ・ 両ネットワークを統合し、新たに構築した、レセプト情報を活用した診療支援システム（K-MIX R B A S I C）とも連携、かがわ医療情報ネットワーク（K-MIX R）としての運用を開始する。 											
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本県における医療情報連携を推進し、効率的かつ質の高い医療を持続的に提供する体制を維持するため、K-MIX Rを活用し、診療所・薬局を含む県内医療機関の連携や機能分担を促進する。 											
K P I	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">指標</th> <th style="background-color: #d9ead3;">当初 (H29 年度)</th> <th style="background-color: #d9ead3;">現状 (R1 年度)</th> <th style="background-color: #d9ead3;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かがわ遠隔医療ネットワーク（K-MIX）への参加医療機関数（県内）</td> <td style="text-align: center;">141 か所</td> <td style="text-align: center;">163 か所</td> <td style="text-align: center;">200 か所</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H29 年度)	現状 (R1 年度)	目標 (R3 年度)	かがわ遠隔医療ネットワーク（K-MIX）への参加医療機関数（県内）	141 か所	163 か所	200 か所
	指標	当初 (H29 年度)	現状 (R1 年度)	目標 (R3 年度)								
	かがわ遠隔医療ネットワーク（K-MIX）への参加医療機関数（県内）	141 か所	163 か所	200 か所								
工程表	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">R1 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R2 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">K-MIX及びK-MIX+の運用</div> </td> <td style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">K-MIX Rの運用</div> </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">K-MIX及びK-MIX+の運用</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">K-MIX Rの運用</div>		
	R1 年度	R2 年度	R3 年度									
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">K-MIX及びK-MIX+の運用</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">K-MIX Rの運用</div>										

38													
施策名	救急・周産期医療情報システムの利活用推進												
担当課	医務国保課												
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した地域課題の解決												
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・救急隊が救急搬送先医療機関を選択する際、救急・周産期医療情報システムを活用して、専用の携帯端末から各医療機関への患者の受入状況が確認できるため、比較的余裕のある医療機関から受入交渉を開始することができている。 ・救急隊が入力した傷病者情報が瞬時に電子データとしてシステムに登録されることにより、医療機関は患者が到着する前に情報を把握することができるため、病院到着後の迅速な処理が可能となっている。 ・平成 30 年度から新システムでの運用を開始している。 												
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・初期、2 次、3 次救急医療体制を情報面から支援するため、システムの安定的な維持・運用をしていく。 												
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H30 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">システムの利活用</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	システムの利活用	推進	推進	推進	
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)										
システムの利活用	推進	推進	推進										
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 40px; margin: 0 auto; position: relative;"> <div style="position: absolute; right: -10px; top: 50%; transform: translateY(-50%); border-left: 10px solid transparent; border-right: 10px solid transparent; border-bottom: 10px solid black;"></div> </div> <p style="margin: 0;">システムの安定運用</p> </td> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 40px; margin: 0 auto; position: relative;"> <div style="position: absolute; right: -10px; top: 50%; transform: translateY(-50%); border-left: 10px solid transparent; border-right: 10px solid transparent; border-bottom: 10px solid black;"></div> </div> <p style="margin: 0;">システムの安定運用</p>					
R1 年度	R2 年度	R3 年度											
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 40px; margin: 0 auto; position: relative;"> <div style="position: absolute; right: -10px; top: 50%; transform: translateY(-50%); border-left: 10px solid transparent; border-right: 10px solid transparent; border-bottom: 10px solid black;"></div> </div> <p style="margin: 0;">システムの安定運用</p>													

39										
施策名	調剤情報にかかる I C T 化の普及推進									
担当課	薬務感染症対策課									
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G 等を活用した地域課題の解決									
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・紙のお薬手帳では、持参するのを忘れてたり、複数に分散したりして、調剤情報を十分に一元管理できない場合もあることから、電子お薬手帳の普及も推進している。 ・スマートフォンの電子お薬手帳は、常に携帯している人が多く、災害時にも役立つ。また、クラウド上にデータを保存しているため、機器が損傷しても情報を失うおそれがない。 									
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、スマートフォンの電子お薬手帳の普及を促進する。 ・県内すべての薬局において、電子お薬手帳に対応できるよう体制づくりに努める。 									
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H30 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">電子版お薬手帳に対応している薬局数</td> <td style="text-align: center;">304 薬局</td> <td style="text-align: center;">331 薬局</td> <td style="text-align: center;">前年度から増加</td> </tr> </tbody> </table> <p>※県内の薬局数：546 薬局（令和 2 年度現在）</p>	指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	電子版お薬手帳に対応している薬局数	304 薬局	331 薬局	前年度から増加	
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)							
電子版お薬手帳に対応している薬局数	304 薬局	331 薬局	前年度から増加							
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 電子お薬手帳又は電子薬歴システム等 I C T の普及推進 </div> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ➤ 調剤情報電子ネットワークの安定運用 </div> </td> </tr> </tbody> </table>	R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 電子お薬手帳又は電子薬歴システム等 I C T の普及推進 </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ➤ 調剤情報電子ネットワークの安定運用 </div>		
R1 年度	R2 年度	R3 年度								
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 電子お薬手帳又は電子薬歴システム等 I C T の普及推進 </div>										
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ➤ 調剤情報電子ネットワークの安定運用 </div>										

40												
施策名	センサー開閉器付き捕獲システムによる野犬対策の推進											
担当課	生活衛生課											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ ・ A I ・ 5 G 等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本県は、温暖な気候や無責任にエサをやる行為等により、多数の野犬が生息・繁殖しており、人なれしていないなどの理由から新しい飼い主へ譲渡することもできず、結果として、犬の殺処分数が全国ワースト1位となっている。一方で、保健所には住民から多数の苦情・相談が寄せられ、市町からも野犬対策の強化について要望がある。 ・このような状況を改善するためには、野犬の捕獲・収容を集中的に行うことにより、野犬の繁殖を抑止する必要がある。野犬の捕獲・収容には、捕獲箱やサークル型捕獲器等を使用しているが、複数の成犬の群れを捕獲するには限度がある。 ・クラウドサービスで遠隔監視・操作が可能となるセンサー開閉器付き捕獲システムを平成30年度から導入し、野犬の効率的な捕獲・収容について検証を行っている。 											
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、センサー開閉器付き捕獲システムを活用し、効率的に野犬の捕獲・収容を行い、野犬対策に努める。 ・収容された犬のうち、譲渡適性があるものについては、最後まで責任を持って飼養するよう講習等を実施し譲渡を推進する。さらに、県民に向けて、犬の適正飼養やいのちの大切さについて、積極的に啓発することにより、殺処分数の減少を目指す。 											
K P I	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th>指標</th> <th>当初 (H29 年度)</th> <th>現状 (R2 年度)</th> <th>目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>捕獲システムの利活用</td> <td>未導入</td> <td>活用中</td> <td>拡大</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H29 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	捕獲システムの利活用	未導入	活用中	拡大
指標	当初 (H29 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)									
捕獲システムの利活用	未導入	活用中	拡大									
工程表	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th>R1 年度</th> <th>R2 年度</th> <th>R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; height: 100px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: auto; padding: 10px;"> センサー開閉器付き捕獲システムの活用、効果検証 </div> </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: auto; padding: 10px;"> センサー開閉器付き捕獲システムの活用、効果検証 </div>				
R1 年度	R2 年度	R3 年度										
<div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: auto; padding: 10px;"> センサー開閉器付き捕獲システムの活用、効果検証 </div>												

41												
施策名	かがわ縁結び支援センターにおけるデータ活用の推進											
担当課	子ども政策課											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ ・ A I ・ 5 G 等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<p>・本県では、少子化の大きな要因となっている晩婚化の進行や未婚率の上昇を防ぐため、結婚を希望する男女の出会い・結婚をサポートする拠点「かがわ縁結び支援センター（EN-MUSU かがわ）」を設置し、結婚支援に取り組んでいる。</p> <p>（令和3年1月31日現在）（累計）</p> <p>マッチング会員登録者数：1,113名 お引合せ成立数：2,923組（累計）</p> <p>カップル数：1,332組（累計） 成婚数：107組（累計）</p> <p>・平成29年度からは、マッチングの際に、ビッグデータの活用を開始している。</p>											
取組の方向性	<p>・市町との連携などを通じて継続的に新規の会員登録を促進するとともに、登録会員の円滑なマッチングに向けて引き続きビッグデータの活用を推進や、自身のタブレット端末でお相手探し・お引合せの申込みができるようシステムを改修する等、会員の利便性の向上を図る。</p>											
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H29 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R2 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かがわ縁結び支援センターの縁結びマッチングにおけるカップル数</td> <td style="text-align: center;">293 組 (H28~29 年 度 319 組)</td> <td style="text-align: center;">1,306 組 (H29 年 4 月 ~R3 年 1 月)</td> <td style="text-align: center;">1,260 組 (H29~R2 年度)</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H29 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R2 年度)	かがわ縁結び支援センターの縁結びマッチングにおけるカップル数	293 組 (H28~29 年 度 319 組)	1,306 組 (H29 年 4 月 ~R3 年 1 月)	1,260 組 (H29~R2 年度)
指標	当初 (H29 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R2 年度)									
かがわ縁結び支援センターの縁結びマッチングにおけるカップル数	293 組 (H28~29 年 度 319 組)	1,306 組 (H29 年 4 月 ~R3 年 1 月)	1,260 組 (H29~R2 年度)									
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> 市町との連携の促進 新規会員登録の促進 ビッグデータの活用 </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> 会員の利便性の向上 （システム改修） </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	市町との連携の促進 新規会員登録の促進 ビッグデータの活用		会員の利便性の向上 （システム改修）		
R1 年度	R2 年度	R3 年度										
市町との連携の促進 新規会員登録の促進 ビッグデータの活用		会員の利便性の向上 （システム改修）										

42																			
施策名	産業成長戦略に基づく「かがわSociety 5.0」の推進																		
担当課	産業政策課																		
該当する基本方針	(5) I o T・ビッグデータ・A I・5 G等を活用した地域課題の解決																		
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次産業革命と言われる技術革新の中で、全ての産業でI o T、A I等の活用が期待されており、私たちの生活や働き方などを劇的に変える可能性が高まっている。また、第4次産業革命のイノベーションがあらゆる産業や社会生活に取り入れられることで、A Iの活用等が人口減少局面にある本県の様々な課題解決につながるものと期待されている。 ・一方で、中小企業では、デジタル化の推進に当たり専門的な知識を有する人材の不足や導入コスト等の費用面、又は、相談先が分からないといった面からの課題がある。 ・県内企業等において、A Iをはじめとした先端技術の利活用を推進させるためには、専門的な知識を有するキーパーソンとなる人材の育成が重要である。 																		
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・県内企業へのI o T、A I等の導入を促進するためには、支援体制を強化する必要があることから、国立研究開発法人産業技術総合研究所などとも連携し、県内企業からの相談に的確に対応するほか、普及啓発や研修など、人材育成面での支援に取り組む。 ・I o Tに関しては、企業の導入検討等を支援するとともに、A Iに関しては、国立研究開発法人産業技術総合研究所との連携協定を活用し、企業の研究開発等を支援する。 ・県内企業等で活躍する技術者等がA Iの基礎的な知識・技術の学習及び最新の技術動向等の情報を提供する機会を県内で創出するとともに、A I人材の育成に取り組む。 ・県内企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、デジタル化を推進することにより、生産性の向上に加え、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するデジタルトランスフォーメーションを実現できるよう、セミナー等を通じた意識啓発や専門家による個別コンサルティング支援等に取り組む。 																		
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H30 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">県内企業へのI o T、A I等の導入支援</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	県内企業へのI o T、A I等の導入支援	推進	推進	推進							
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)																
県内企業へのI o T、A I等の導入支援	推進	推進	推進																
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">技術相談への対応、産総研等のアドバイザーとの連携・橋渡し、講習会等の開催等</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">I o T、A I等の導入支援</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">A I人材の育成</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">デジタルトランスフォーメーションの普及啓発</td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	技術相談への対応、産総研等のアドバイザーとの連携・橋渡し、講習会等の開催等			I o T、A I等の導入支援			A I人材の育成			デジタルトランスフォーメーションの普及啓発		
R1 年度	R2 年度	R3 年度																	
技術相談への対応、産総研等のアドバイザーとの連携・橋渡し、講習会等の開催等																			
I o T、A I等の導入支援																			
A I人材の育成																			
デジタルトランスフォーメーションの普及啓発																			

43																
施策名	県内企業のテレワークなど多様な働き方の促進															
担当課	労働政策課															
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ ・ A I ・ 5 G 等を活用した地域課題の解決															
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本県では、少子高齢化、生産年齢人口の減少が進んでおり、労働力率は減少傾向が続いている。また、新型コロナウイルス感染症の影響があるものの、有効求人倍率は1倍を超える状況が続いており、企業における人手不足の解消が大きな課題となっている。 ・ 人手不足解消のためには、フレックスタイムの導入や、テレワークを利用した在宅勤務など、多様な働き方の導入などによる「魅力ある職場づくり」が効果的であるが、そうした取組を促進する必要がある。 															
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の労働環境の整備や多様な働き方の推進を支援することで「魅力ある職場づくり」を促し、人手不足の解消を図る。 ・ 働き方改革推進アドバイザーによる企業訪問や、新しい働き方や誰もが働きやすい環境づくりに対する助成金、働き方改革の意義や重要性の広報・啓発等により、県内企業の働き方改革を促進し、テレワーク等の多様な働き方の導入企業の増加を図る。 															
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="width: 40%;">指標</th> <th style="width: 15%;">当初 (H30 年度)</th> <th style="width: 15%;">現状 (R2 年度)</th> <th style="width: 30%;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>働き方改革推進アドバイザー事業</td> <td style="text-align: center;">年間 300 社 以上訪問</td> <td style="text-align: center;">訪問企業数 296 社 (1 月末時点)</td> <td style="text-align: center;">年間 300 社 以上訪問</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	働き方改革推進アドバイザー事業	年間 300 社 以上訪問	訪問企業数 296 社 (1 月末時点)	年間 300 社 以上訪問				
	指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)												
働き方改革推進アドバイザー事業	年間 300 社 以上訪問	訪問企業数 296 社 (1 月末時点)	年間 300 社 以上訪問													
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="width: 33%;">R1 年度</th> <th style="width: 33%;">R2 年度</th> <th style="width: 33%;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> </div> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> </div> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div> </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div>		
R1 年度	R2 年度	R3 年度														
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> </div>																
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> </div>																
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div>																

44										
施策名	県公式観光サイト「うどん県旅ネット」の強化									
担当課	観光振興課									
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した地域課題の解決									
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度に県公式観光サイト「うどん県旅ネット」をリニューアルし、平成 28 年度には一部多言語化の対応を行った。 ・うどん県旅ネットはスマートフォンからのアクセスが7割を超えており、平成 29 年度からはアクセスの多いページから順次スマートフォン最適化の対応を進めている。 ・令和元年度には、インバウンド観光客の利便性向上のため、多言語できめ細かな観光情報の提供とスマートフォン最適化を実施した。 									
取組の方向性	・うどん県旅ネットの多言語化対応とスマートフォン最適化を推進し、多言語の情報を充実させるとともに利用者のW e bアクセシビリティの向上を図り、本県の魅力を効果的に発信する。									
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H29 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R1 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>うどん県旅ネットのページビュー (うち 外国語サイトのページビュー)</td> <td style="text-align: center;">8,560,574 件 (200,737 件)</td> <td style="text-align: center;">8,424,527 件 (307,790 件)</td> <td style="text-align: center;">拡大</td> </tr> </tbody> </table>	指標	当初 (H29 年度)	現状 (R1 年度)	目標 (R3 年度)	うどん県旅ネットのページビュー (うち 外国語サイトのページビュー)	8,560,574 件 (200,737 件)	8,424,527 件 (307,790 件)	拡大	
指標	当初 (H29 年度)	現状 (R1 年度)	目標 (R3 年度)							
うどん県旅ネットのページビュー (うち 外国語サイトのページビュー)	8,560,574 件 (200,737 件)	8,424,527 件 (307,790 件)	拡大							
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">多言語化の実施</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">多言語の情報充実によるアクセス増</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">スマートフォン最適化の実施</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">W e bアクセシビリティ向上によるアクセス増</td> </tr> </tbody> </table>	R1 年度	R2 年度	R3 年度	多言語化の実施	多言語の情報充実によるアクセス増		スマートフォン最適化の実施	W e bアクセシビリティ向上によるアクセス増	
R1 年度	R2 年度	R3 年度								
多言語化の実施	多言語の情報充実によるアクセス増									
スマートフォン最適化の実施	W e bアクセシビリティ向上によるアクセス増									

45																				
施策名	SNSを活用した観光誘客の推進																			
担当課	観光振興課																			
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ ・ A I ・ 5 G等を活用した地域課題の解決																			
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSはスマートフォンの普及とともに利用者が急増しており、効果的に情報発信を行うことで観光誘客に活用することができる。 ・ 県では、フェイスブック、ツイッターに加えて、インスタグラムによる情報発信を開始しており、観光誘客により一層の効果が見込める情報発信を行っていくことが課題である。 																			
取組の方向性	・ 引き続き、観光客が求めるきめ細かな情報を発信することで、観光客の増加を図る。																			
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="width: 40%;">指標</th> <th style="width: 15%;">当初 (H29 年度)</th> <th style="width: 15%;">現状 (R1 年度)</th> <th style="width: 10%;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フェイスブックのフォロワー数</td> <td style="text-align: center;">2,324 人</td> <td style="text-align: center;">4,487 人</td> <td style="text-align: center;">拡大</td> </tr> <tr> <td>ツイッターのフォロワー数</td> <td style="text-align: center;">1,551 人</td> <td style="text-align: center;">7,097 人</td> <td style="text-align: center;">拡大</td> </tr> <tr> <td>インスタグラムのフォロワー数</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">13,188 人</td> <td style="text-align: center;">拡大</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H29 年度)	現状 (R1 年度)	目標 (R3 年度)	フェイスブックのフォロワー数	2,324 人	4,487 人	拡大	ツイッターのフォロワー数	1,551 人	7,097 人	拡大	インスタグラムのフォロワー数	-	13,188 人	拡大
	指標	当初 (H29 年度)	現状 (R1 年度)	目標 (R3 年度)																
	フェイスブックのフォロワー数	2,324 人	4,487 人	拡大																
	ツイッターのフォロワー数	1,551 人	7,097 人	拡大																
	インスタグラムのフォロワー数	-	13,188 人	拡大																
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="width: 33%;">R1 年度</th> <th style="width: 33%;">R2 年度</th> <th style="width: 33%;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;"> フェイスブック、 ツイッターによる 情報発信の見直し </div> </td> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;"> フェイスブック、ツイッター、 インスタグラムによる観光情報の発信 </div> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;"> インスタグラムによる 情報発信の開始 </div> </td> <td colspan="2"></td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;"> フェイスブック、 ツイッターによる 情報発信の見直し </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;"> フェイスブック、ツイッター、 インスタグラムによる観光情報の発信 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;"> インスタグラムによる 情報発信の開始 </div>									
	R1 年度	R2 年度	R3 年度																	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;"> フェイスブック、 ツイッターによる 情報発信の見直し </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;"> フェイスブック、ツイッター、 インスタグラムによる観光情報の発信 </div>																			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;"> インスタグラムによる 情報発信の開始 </div>																				

46												
施策名	デジタルマーケティングによる観光誘客の推進											
担当課	観光振興課											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ ・ A I ・ 5 G 等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン等のデジタルデバイスの普及が進んだこと、デジタルメディア・コンテンツが多種多様になったことにより、消費者がデジタルメディアを活用する機会が増えており、SNSを中心としたインターネットの口コミ情報等の重要度が高まってきている。 ・うどん県SNS（フェイスブック、インスタグラム、ツイッター）を活用して本県の情報発信を行い、「うどん県旅ネット」への誘導を図ってはいるものの、サイト閲覧者の属性分析までに対応できておらず、本県への訪問に直接つながる、より効果的な情報発信が実施できていない。 ・広告動画の配信等により本県の知名度の向上やイメージアップを図ることはできたが、動画閲覧者に対し、本県への具体的な旅のイメージを喚起させることができていない。 											
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを中心に、具体的な観光地や体験にフォーカスした、地域資源を前面に押し出した広告動画を配信することにより、本県の認知度を一層向上させるとともに、動画閲覧者に具体的な香川旅行のイメージをわかせる、本県への興味関心を深化させるため、広告配信の成果やうどん県旅ネットへのアクセス状況を分析して、より効果的な情報発信を実施し、本県への誘客促進を図る。 											
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H30 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>デジタルマーケティングによる観光誘客</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	デジタルマーケティングによる観光誘客	—	—	推進
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)									
デジタルマーケティングによる観光誘客	—	—	推進									
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 150px;"></td> <td style="height: 150px;"></td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> デジタルマーケティングによる観光誘客 </div> </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> デジタルマーケティングによる観光誘客 </div>		
R1 年度	R2 年度	R3 年度										
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> デジタルマーケティングによる観光誘客 </div>										

47												
施策名	位置情報ビッグデータを活用した外国人観光客動向等調査											
担当課	観光振興課国際観光推進室											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客の実態を把握するため、定期的にW e bアンケートとゲストハウスアンケートを実施し、香川県についての満足度や不満点などを定量的に把握している。 ・受入環境向上のための調査を行っている一方で、誘客のための効果的なプロモーションの立案や展開のための調査は行われていないため、本県を訪れる外国人観光客の移動に係る傾向を把握することが求められている。 											
取組の方向性	・位置情報ビッグデータを活用した本県を訪れる外国人観光客の県内外の移動に係る状況を把握し、本県への誘客プロモーションに繋げる。											
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">指標</th> <th style="width: 12.5%;">当初 (H30 年度)</th> <th style="width: 12.5%;">現状 (R2 年度)</th> <th style="width: 12.5%;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>位置情報ビッグデータを活用した調査</td> <td style="text-align: center;">未実施</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	位置情報ビッグデータを活用した調査	未実施	推進	推進
	指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)								
位置情報ビッグデータを活用した調査	未実施	推進	推進									
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33.33%;">R1 年度</th> <th style="width: 33.33%;">R2 年度</th> <th style="width: 33.33%;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">位置情報ビッグデータを活用した調査</div> </td> <td colspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">調査結果に基づく誘客プロモーションの立案、展開</div> </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">位置情報ビッグデータを活用した調査</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">調査結果に基づく誘客プロモーションの立案、展開</div>			
R1 年度	R2 年度	R3 年度										
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">位置情報ビッグデータを活用した調査</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">調査結果に基づく誘客プロモーションの立案、展開</div>											

48											
施策名	デジタルマーケティングによる戦略的なプロモーション事業の推進										
担当課	観光振興課国際観光推進室										
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ ・ A I ・ 5 G 等を活用した地域課題の解決										
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・観光業界を取り巻くテクノロジーやサービスの発展、スマートフォンの利用増加、個人旅行者の増加などに伴い、インバウンドにおけるデジタルマーケティングの重要性が増している。 ・インバウンド施策においてデジタルマーケティングを活用する場面が増える中で、効果的な W e b サイトの運営や S N S 等での広告配信、それらの情報データを基にした行動分析を通じたさらなる情報提供による来訪促進に繋げることなどにより、観光誘客に重点を置いた情報発信を行い、誘客に繋げる必要がある。 										
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、W e b 上における本県観光に関する情報発信を継続することで旅行需要喚起を図り、コロナ禍収束後の本県へのインバウンド需要回復に繋げる。 ・航空会社の海外向け公式サイト内の本県特設ページにおける観光情報の発信及び訪日旅行を検討する層をターゲットとしたデジタルマーケティングを実施する。 										
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H30 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サイト訪問者数 等</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </tbody> </table>			指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	サイト訪問者数 等	—	—	推進
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)								
サイト訪問者数 等	—	—	推進								
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; padding: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block; width: 80%;"> せとうち D M O や航空会社との連携による主に欧米豪市場からの誘客プロモーションの立案、展開 </div> </td> </tr> </tbody> </table>			R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block; width: 80%;"> せとうち D M O や航空会社との連携による主に欧米豪市場からの誘客プロモーションの立案、展開 </div>				
R1 年度	R2 年度	R3 年度									
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block; width: 80%;"> せとうち D M O や航空会社との連携による主に欧米豪市場からの誘客プロモーションの立案、展開 </div>											

49																									
施策名	スマート農業の推進																								
担当課	農業経営課、農業生産流通課																								
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した地域課題の解決																								
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の農業・農村を巡る情勢は、農業者の高齢化や減少、農産物価格の低迷、耕作放棄地の増加など厳しいものがあり、かつ、経営体規模が小さく、集約化とともに作業効率をいかに改善するかが独自の課題となっている。 ・一方、自然災害が少なく、周年的に営農可能であるという恵まれた自然や立地条件の下、「おいでまい」などのオリジナル品種を中心にブランド農産物の生産意欲が拡大している。また、大規模な法人経営体が増加するほか、新規参入や法人雇用等により、次世代を担う若手農業者が増加するなど、明るい兆しも見られている。 ・こうした状況の中で、本県農業の成長産業化を加速化するためには、スマート農業技術を活用し、高度な生産技術や経営管理のノウハウ等について、データに裏付けされた「見える化」を進め、新規就農者も含め幅広い農業者で適用可能とする必要がある。 																								
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・本県農業が有する「弱み」の克服と「強み」の発揮を主眼として、適切な課題設定の下で戦略的にスマート農業技術の導入・活用を進めるために、以下の各種施策を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> - 大規模経営農家の経営改善・低コスト化 - 高品質・高収量な農産物の安定生産 - 農産物の信頼性の向上に向けた流通販売 - 高度栽培技術の継承 																								
K P I	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">指標</th> <th>当初 (H30 年度)</th> <th>現状 (R2 年度)</th> <th>目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スマート農業技術の導入・活用</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>	指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	スマート農業技術の導入・活用	推進	推進	推進																
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)																						
スマート農業技術の導入・活用	推進	推進	推進																						
工程表	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">R1 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R2 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業生産技術開発実証事業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>加工・業務用葉ねぎの省力安定生産技術の開発</td> <td colspan="2">データ駆動型農業の実践体制づくり支援事業（ミニトマト、イチゴ）</td> </tr> <tr> <td>スマート農業技術の開発・実証プロジェクト（露地野菜）</td> <td></td> <td>水稻スマート水管理最適化事業</td> </tr> <tr> <td colspan="3">A I を活用した病害虫診断技術、土壌病害診断技術の開発、施設園芸の病害予測・防除支援開発</td> </tr> <tr> <td colspan="3">情報活用農業推進事業（栽培技術高位平準化システム開発（イチゴ、カンキツ関係））</td> </tr> <tr> <td colspan="3">ブロックリー出荷予測情報システムの開発</td> </tr> <tr> <td>農業者への情報提供、普及啓発</td> <td></td> <td>スマート農業普及啓発促進事業</td> </tr> </tbody> </table>	R1 年度	R2 年度	R3 年度	農業生産技術開発実証事業			加工・業務用葉ねぎの省力安定生産技術の開発	データ駆動型農業の実践体制づくり支援事業（ミニトマト、イチゴ）		スマート農業技術の開発・実証プロジェクト（露地野菜）		水稻スマート水管理最適化事業	A I を活用した病害虫診断技術、土壌病害診断技術の開発、施設園芸の病害予測・防除支援開発			情報活用農業推進事業（栽培技術高位平準化システム開発（イチゴ、カンキツ関係））			ブロックリー出荷予測情報システムの開発			農業者への情報提供、普及啓発		スマート農業普及啓発促進事業
R1 年度	R2 年度	R3 年度																							
農業生産技術開発実証事業																									
加工・業務用葉ねぎの省力安定生産技術の開発	データ駆動型農業の実践体制づくり支援事業（ミニトマト、イチゴ）																								
スマート農業技術の開発・実証プロジェクト（露地野菜）		水稻スマート水管理最適化事業																							
A I を活用した病害虫診断技術、土壌病害診断技術の開発、施設園芸の病害予測・防除支援開発																									
情報活用農業推進事業（栽培技術高位平準化システム開発（イチゴ、カンキツ関係））																									
ブロックリー出荷予測情報システムの開発																									
農業者への情報提供、普及啓発		スマート農業普及啓発促進事業																							

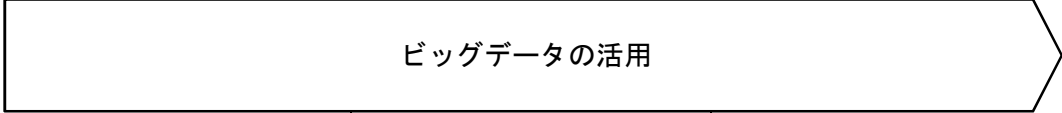
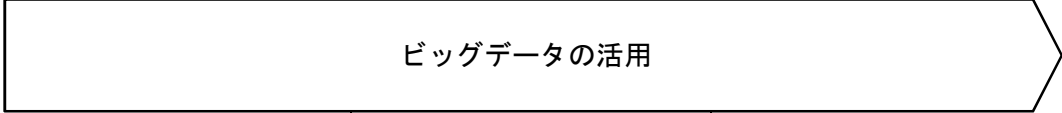
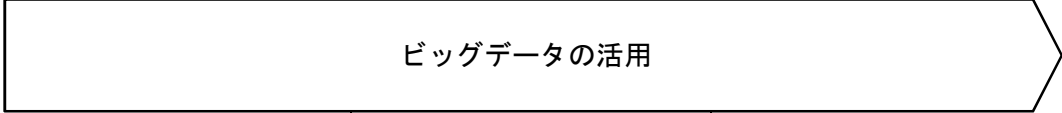
50											
施策名	スマート畜産の推進										
担当課	畜産課、農業経営課										
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した地域課題の解決										
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産業をめぐる情勢は、畜産農家の高齢化や担い手不足、生産資材価格の高止まりのほか、T P Pをはじめとする経済連携協定が進むなど、厳しい状況にあり、法人化や大規模経営、6次産業化が進みつつあるものの、小規模農家が多い本県では、作業効率や生産性の向上が課題になっている。 ・こうした状況の中、本県畜産業の成長産業化に向けて、I C T機器を活用した家畜管理技術のスマート化（I o A : Internet of Animals）や低コスト化など、戦略的なスマート畜産の推進に取り組む必要がある。 										
取組の方向性	<p>「かがわ畜産 I C T 導入・活用戦略」に基づき、スマート畜産の導入・活用による次の内容などを推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 飼養管理の効率化・省力化、事故率の低減 2) 品質向上や安定的な生産体制（災害発生時の対応を含む）を図るための飼養管理の改善 3) 経営管理の効率化・省力化 4) 畜産農家が導入・活用しやすいスマート畜産の普及 										
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H30 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">スマート畜産の導入・活用</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </tbody> </table>			指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	スマート畜産の導入・活用	推進	推進	推進
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)								
スマート畜産の導入・活用	推進	推進	推進								
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block; width: 80%;"> 畜産農家への情報提供、普及啓発 モデル農家における実証 </div> </td> </tr> </tbody> </table>			R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block; width: 80%;"> 畜産農家への情報提供、普及啓発 モデル農家における実証 </div>				
R1 年度	R2 年度	R3 年度									
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block; width: 80%;"> 畜産農家への情報提供、普及啓発 モデル農家における実証 </div>											

51												
施策名	I C T を活用したオリーブ栽培の推進											
担当課	農業生産流通課											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G 等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全国一の生産量を誇るオリーブの生産においては、長年の経験による栽培技術の蓄積が必要不可欠であり、新規栽培者の参入や高品質果実の安定生産を達成するうえでの課題となっている。 ・平成 27 年度から令和元年度は、慶応義塾大学に委託し、A I (Agri-Infoscience: 農業情報科学) を活用して篤農家の持つ栽培技術のデータ等を収集し、収集したデータを整理・分析したうえで、新規就農者等に技術を継承し、栽培技術の高位平準化を図るためのシステムを開発し、普及定着に取り組んでいる。 											
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・オリーブ栽培技術の可視化・システム化を推進し、構築したシステムについて実際の栽培現場への普及・適応性を検討する。 											
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H25 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R1 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R2 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">オリーブ生産量</td> <td style="text-align: center;">254t</td> <td style="text-align: center;">540 t</td> <td style="text-align: center;">500t</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H25 年度)	現状 (R1 年度)	目標 (R2 年度)	オリーブ生産量	254t	540 t	500t
指標	当初 (H25 年度)	現状 (R1 年度)	目標 (R2 年度)									
オリーブ生産量	254t	540 t	500t									
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> オリーブ栽培技術の可視化・システム化の検討 </div> </td> <td colspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> 実際の栽培現場への普及・適応性検討 </div> </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> オリーブ栽培技術の可視化・システム化の検討 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> 実際の栽培現場への普及・適応性検討 </div>			
R1 年度	R2 年度	R3 年度										
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> オリーブ栽培技術の可視化・システム化の検討 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> 実際の栽培現場への普及・適応性検討 </div>											

52									
施策名	I C T を活用した養殖管理システム等の導入推進								
担当課	水産課								
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G 等を活用した地域課題の解決								
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド養殖品を生産する養殖業者の生産履歴を、当該ブランド養殖品管理団体が一元管理することでリスク管理の強化を図っている。 ・ブランド養殖品のより一層の品質向上を図るため、平成 28 年度から令和元年度まで讃岐さーもん養殖（漁期 12 月～翌年 5 月）の生産履歴の情報をクラウド上で管理及び共有した。 ・令和元年からは、生産履歴の情報をクラウドからそれぞれの讃岐さーもん生産者の端末に移し、共有している。 ・魚類養殖業の競争力強化のため、養殖管理の高度化、省力化に向けたデジタル化の促進が必要である。 								
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年度から、体長測定自動装置（養殖小割生簀内の養殖魚の体長、体重等を水中映像より測定する装置）の導入を支援する計画である。 								
K P I	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th>指標</th> <th>当初 (H30 年度)</th> <th>現状 (R2 年度)</th> <th>目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>養殖管理システムの導入品種数</td> <td>1 種</td> <td>1 種</td> <td>拡大</td> </tr> </tbody> </table>	指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	養殖管理システムの導入品種数	1 種	1 種	拡大
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)						
養殖管理システムの導入品種数	1 種	1 種	拡大						
工程表	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th>R1 年度</th> <th>R2 年度</th> <th>R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; height: 100px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: auto; padding: 10px;"> 養殖管理システム等の導入推進 </div> </td> </tr> </tbody> </table>	R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: auto; padding: 10px;"> 養殖管理システム等の導入推進 </div>				
R1 年度	R2 年度	R3 年度							
<div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: auto; padding: 10px;"> 養殖管理システム等の導入推進 </div>									

53											
施策名	魅力ある建設現場の推進										
担当課	土木監理課										
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した地域課題の解決										
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の建設産業においては、労働者の高齢化や若年労働者の不足が進んでおり、このままでは、将来にわたる社会資本の整備や維持管理、品質確保、防災・減災対策などに支障が生じることが懸念されており、産学官が共通認識のもと、一体となって、特に若年の人材の確保や育成、その定着に向け、より効果的な対策を講じていくことが必要となっている。 ・担い手不足に対応するためには、建設産業における生産性の向上は不可欠である。国土交通省においては建設現場の生産性を向上させ、魅力ある建設現場を目指して i-Construction (アイ・コンストラクション) をすすめており、県においては I C T 施工技術を活用する工事の試行を行い、I C T 活用工事の普及に努めている。 										
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ I C T 施工の普及により、生産性の向上を図るとともに現在の担い手不足に対応する。また、作業効率や安全性の向上等により、建設現場の環境改善を行い、建設現場のイメージアップにつなげるため、I C T 施工に取り組む事業者を支援する。 ・補助事業により I C T 機器を導入した事業者へは普及啓発活動の実施を求める。 										
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H30 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">I C T 機器研修受講社数</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">5 社</td> </tr> </tbody> </table>			指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	I C T 機器研修受講社数	—	—	5 社
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)								
I C T 機器研修受講社数	—	—	5 社								
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 150px;"></td> <td style="height: 150px;"></td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">I C T 機器の導入支援</div> </td> </tr> </tbody> </table>			R1 年度	R2 年度	R3 年度			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">I C T 機器の導入支援</div>		
R1 年度	R2 年度	R3 年度									
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">I C T 機器の導入支援</div>									

54									
施策名	I C T を活用した建設業の生産性向上の推進								
担当課	技術企画課								
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G 等を活用した地域課題の解決								
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・建設業は社会インフラ整備の担い手であると同時に、社会の安全・安心の確保を担う、地域社会に必要不可欠な守り手となっている。人口減少や高齢化が進む中であっても、これらの役割を果たすためには、建設業の賃金水準の向上や休日の拡大等による働き方改革とともに、生産性向上が必要不可欠である。 ・このため、調査・測量から設計、施工、検査、維持管理・更新までの全ての建設生産プロセスで I C T 等の活用を推進し、建設現場の生産性の向上を図る必要がある。 ・平成 30 年度から、香川県 I C T 活用工事（土工）を、昨年度から同（舗装工）を試行している。 								
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・試行工事の結果を踏まえ、対象工事の拡大などの検討を行い、I C T 活用工事の普及に努める。 ・さらに将来的に調査・設計段階から施工・維持管理の各段階で活用するための取り組み研究を行う。 								
K P I	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">指標</th> <th style="background-color: #d9ead3;">当初 (H30 年度)</th> <th style="background-color: #d9ead3;">現状 (R2 年度)</th> <th style="background-color: #d9ead3;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I C T 活用工事の推進</td> <td>試行開始 (土工)</td> <td>試行継続 (土工・舗装工)</td> <td>工種拡大</td> </tr> </tbody> </table>	指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	I C T 活用工事の推進	試行開始 (土工)	試行継続 (土工・舗装工)	工種拡大
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)						
I C T 活用工事の推進	試行開始 (土工)	試行継続 (土工・舗装工)	工種拡大						
工程表	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">R1 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R2 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="height: 100px; vertical-align: middle;">I C T 土工・舗装工の試行継続</td> <td style="height: 100px; vertical-align: middle;">適用工種の拡大について調査・検討</td> </tr> </tbody> </table>	R1 年度	R2 年度	R3 年度	I C T 土工・舗装工の試行継続		適用工種の拡大について調査・検討		
R1 年度	R2 年度	R3 年度							
I C T 土工・舗装工の試行継続		適用工種の拡大について調査・検討							

55												
施策名	ビッグデータを活用した道路整備効果算定の推進											
担当課	道路課											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ ・ A I ・ 5 G 等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・道路整備の必要性を検討する際に、整備効果の算定を行う必要があるが、従来の方法ではデータ量が限られていることや、現地で実測することにより費用と期間が必要であることが課題であった。 ・本県では、民間プローブデータ（実際に自動車が走行した位置や車速などの情報）を活用し、道路整備効果の算定を行っている。多量のデータを使用できることから、実際の交通状況を反映できるほか、現地での実測が不要となる。 											
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、道路整備の必要性を検討する際には、民間プローブデータ等のビッグデータを活用し、道路整備による時間短縮効果等の算定を行う。 											
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="width: 40%;">指標</th> <th style="width: 15%;">当初 (H30 年度)</th> <th style="width: 15%;">現状 (R2 年度)</th> <th style="width: 30%;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビッグデータの活用</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </tbody> </table>				指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	ビッグデータの活用	推進	推進	推進
	指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)								
ビッグデータの活用	推進	推進	推進									
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="width: 33%;">R1 年度</th> <th style="width: 33%;">R2 年度</th> <th style="width: 34%;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; padding: 20px;">  </td> </tr> </tbody> </table>				R1 年度	R2 年度	R3 年度					
R1 年度	R2 年度	R3 年度										
												

56																	
施策名	水防・砂防情報システムの更新による情報通信体制の充実強化																
担当課	河川砂防課																
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ・A I ・5 G等を活用した地域課題の解決																
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県が管理する 291 河川のうち 45 河川（95 か所）に設置している水位計に加え、過去に、水害実績がある河川や水防上必要な箇所に危機管理型水位計の設置等を進めているが、洪水時の切迫感を伝え、住民の迅速かつ的確な避難行動につなげることも重要となっている。 ・出水時の水位周知河川における水位情報等の市町への伝達を F A X および電話で実施しており、水防時の業務量が増大するなか、確実な情報伝達及び省力化が求められている。 ・令和 2 年度に砂防情報システムの改修を行い、新システムの利活用を開始した。その一方で、水防情報システムの老朽化が進んでいる。 																
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年 7 月豪雨や台風による被害を踏まえ、浸水被害が発生した箇所など水防上必要な箇所を選定し、危機管理型水位計を追加設置する。また、小型で安価な簡易型河川監視カメラについても、設置を進める。 ・県と市町間における水位情報や土砂災害警戒情報の伝達を、迅速かつ的確に行えるよう、システムによる水防情報伝達の自動化を実施する。 ・水防情報システムの再構築に向けて、調査・設計を行い、機器の更新を進める。 																
K P I	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">指標</th> <th style="text-align: center;">当初 (H30 年度)</th> <th style="text-align: center;">現状 (R2 年度)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>危機管理型水位計の設置・利活用</td> <td style="text-align: center;">34 基設置</td> <td style="text-align: center;">66 基設置</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> <tr> <td>各市町への水防情報伝達自動化</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">調整中</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> <tr> <td>水防情報システムの再構築</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">調整中</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </tbody> </table>	指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	危機管理型水位計の設置・利活用	34 基設置	66 基設置	推進	各市町への水防情報伝達自動化	—	調整中	推進	水防情報システムの再構築	—	調整中	推進
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)														
危機管理型水位計の設置・利活用	34 基設置	66 基設置	推進														
各市町への水防情報伝達自動化	—	調整中	推進														
水防情報システムの再構築	—	調整中	推進														
工程表	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">R1 年度</th> <th style="text-align: center;">R2 年度</th> <th style="text-align: center;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 危機管理型水位計設置、河川監視カメラ設置、各市町への水防情報伝達自動化 </div> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 水防情報システム改修 </div> </td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 砂防情報システム改修 (土壌雨量指数データ高頻度化) </div> </td> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 新機能の運用、利活用 </div> </td> </tr> </tbody> </table>	R1 年度	R2 年度	R3 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 危機管理型水位計設置、河川監視カメラ設置、各市町への水防情報伝達自動化 </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 水防情報システム改修 </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 砂防情報システム改修 (土壌雨量指数データ高頻度化) </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 新機能の運用、利活用 </div>					
R1 年度	R2 年度	R3 年度															
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 危機管理型水位計設置、河川監視カメラ設置、各市町への水防情報伝達自動化 </div>																	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 水防情報システム改修 </div>																	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 砂防情報システム改修 (土壌雨量指数データ高頻度化) </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ➤ 新機能の運用、利活用 </div>																

57												
施策名	コンテナターミナルの効率的な運用の推進											
担当課	港湾課											
該当する基本方針	(5) I o T ・ビッグデータ ・ A I ・ 5 G 等を活用した地域課題の解決											
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高松港コンテナターミナルは、平成 9 年に運用を開始し、釜山港との国際コンテナ定期航路の開設以来、上海航路、青島・大連・新港（天津）航路も順次開設してきた。 ・コンテナ取扱数の増加に伴い、制限区域内への作業員立入時、確認業務簡素化を目的として、平成 29 年に出入管理システムを導入した。 ・高松港コンテナターミナルは、四国地域や環瀬戸内交流圏の中核施設として、より一層の発展が期待されている。 											
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き高松港コンテナターミナルの効率的運用を図る。 ・新たな I C T 等の導入について情報収集を行い、さらなる効率化の可能性について検討を行う。 											
K P I	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">指標</th> <th style="background-color: #d9ead3;">当初 (H30 年度)</th> <th style="background-color: #d9ead3;">現状 (R2 年度)</th> <th style="background-color: #d9ead3;">目標 (R3 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>システムの利活用</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>			指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)	システムの利活用	推進	推進	推進	
指標	当初 (H30 年度)	現状 (R2 年度)	目標 (R3 年度)									
システムの利活用	推進	推進	推進									
工程表	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #d9ead3;">R1 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R2 年度</th> <th style="background-color: #d9ead3;">R3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="height: 40px; vertical-align: middle;">システムの安定運用</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="height: 40px; vertical-align: middle;">新たな I C T 等の導入について情報収集</td> </tr> </tbody> </table>			R1 年度	R2 年度	R3 年度	システムの安定運用			新たな I C T 等の導入について情報収集		
R1 年度	R2 年度	R3 年度										
システムの安定運用												
新たな I C T 等の導入について情報収集												